

司式 熊田雄二牧師
奏楽 大日南苗香姉妹

前 奏
開 会 招 詞

* 賛 美 歌 12:1 聖なる聖なる聖なるかな

聖なる聖なる聖なるかな 三つにしまして一つなる 神の御名を
あさまだき 起き出でてこそ ほめまつれ アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去つ
てください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、
母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも
白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜び
を再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この
口は、あなたの賛美を歌います。 主イエス・キリストの御名によって。ア - メン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、
み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人
のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 71 それ神はその独り子を

それ神はその独り子をたもうほどに 世を愛したまえり
すべて彼を信ずる者の 滅びずしてとこしえの命を得んためなり
それ神は世を愛したまえり 世を愛したまえり アーメン

公 同 の 祈 禱 祈禱書6 ニケア信条(三位一体)

我らは、唯一の全能の神、天と地と、すべて見えるものと見えざるものとの創造者を信ず。我
らは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさきにみ父より生ま

れ、神よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質にいます真の神。万物は彼によりて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのために天より降り、聖霊によって処女マリアより受肉して人となり、我らのために、ポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従って三日目によみがえり、天に昇り、み父の右に座し、生ける者と死ねる者とを審くために、栄光をおびて再び来たりたもう。その御国は終わることがない。／我らは、生命の与え主にして、主なる聖霊を信ず。聖霊はみ父と御子とより出で、み父と御子とともに礼拝され、あがめられ、預言者を通して語りたもう。我らは、唯一の聖なる公同の使徒的教会を信ず。我らは、罪の赦しのための、唯一の洗礼を告白す。我らは、死人のよみがえりと、来たるべき世の命とを待ち望む。 アーメン。

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 全国学生会修養会 70
今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 ルカ福音書15章 (新約聖書138頁)

説教・祈祷 「徴税人や罪人が皆」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 38:1.2 いさおなきわれを

- 1 いさおなきわれを 血をもてあがない イエス招きたもう みもとに我ゆく
- 2 罪とがの汚れ 洗うによしなし イエス清めたもう みもとに我ゆく アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 65 父・御子・御霊のおお御神に
ときわに絶えせず 御栄えあれ 御栄えあれ アーメン

* 祝 禱
後 奏 (黙禱)

報 告 門脇陽子長老 (司会・受付 次週: 雨宮信長老)

本日 受付 1階: 森永美保・古澤迪子執事 2階: 大日南信也執事 / ZOOMホスト・録音: 森川莞太

次週 受付 1階: 那珂信之・星野房子執事 2階: 大日南信也執事 / ZOOMホスト・録音: 番場駿也

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります

I 3月の講解説教の予定

ルカによる福音書の講解説教も、あと3回です。そこで、あと3回はルカ福音書だけにある記事に取り組みたいと思います。各区切りの小見出しの下に、他の福音書の参照箇所がないところです。と言っても、けっこうたくさんあるので、3回分に絞ることになります。きょうは15章です。

II 15章 三つのたとえが語られた場面

ここは「放蕩息子のたとえ」で有名なところですが、どういう場面でイエス様が語られたのか、それを味わってメッセージを聞き取りましょう。

場面設定は1～2節です。「徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言い出した。」

そこでイエス様が話されたのが三つのたとえです。第一が「見失った羊のたとえ」、第二が「無くした銀貨のたとえ」、第三が「放蕩息子のたとえ」です。ですから、それぞれのたとえには、「徴税人や罪人」と「ファリサイ派の人々や律法学者たち」がいます。

「見失った羊のたとえ」では、「見失った一匹」と「野原にいる九十九匹」、「無くした銀貨のたとえ」では「無くした一枚」と「無くしていない九枚」、「放蕩息子のたとえ」では「放蕩息子の弟」と「まじめに働く兄」です。

「放蕩息子のたとえ」がいちばん長いですが、放蕩息子を迎えて宴会を開く父親という場面が、まさに、「罪人たちを迎えて食事まで一緒にしている」イエス様、という現実の場面に通じます。そこで、たとえには、肝心な主役がいます。「放蕩息子のたとえ」では息子の帰りを待ちわびていた父親、「無くした銀貨のたとえ」では十枚の銀貨の持ち主である女、「見失った羊のたとえ」では百匹の羊の持ち主、です。

そこで、小見出しを付けるのだったら主役でなくてはならないという聖書学者や牧師がいます。特に「放蕩息子のたとえ」では「二人の息子の父親」としなくてはならないというわけです。なぜなら、父親は弟だけを気にかけていたのではない、兄にも配慮して言葉をかけているからだというわけです。

その説明は、「見失った羊のたとえ」では欠けていた部分を補うことにもなります。銀貨の方のたとえでは、手元にある九枚の銀貨を心配することはないけれども、羊のたとえでは野原に残された九十九匹の羊が心配です。狼が現れたらどうするんだろう。

まあ、たとえですから、ムキになることはないのですが、あえて説明するなら、百匹の羊の群れを一人の羊飼いが守るということはないでしょう。残された九十九匹には他の羊飼いたちが付いていたでしょう、というように説明することはできます。しかし、こういうことに時間をかけるとメッセージの本質からそれてしまいます。

要するに、「放蕩息子のたとえ」では、不平を言う模範的な兄にも気を配っているので、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言い出したファリサイ派の人々や律法学者たちにも気を配ってメッセージを語っていると云えましょう。

ただ、これも気を使い過ぎると、重点は「徴税人や罪人」にあるのか、「ファリサイ派の人々や律法学者たち」にあるのか、メッセージの本質にブレが生じる可能性があります。私たちはどちらでしょう。私たちはどちらとしてメッセージを聴くべきでしょうか。

とにかく、聖書本文にはない小見出しを付け足すと、こういう議論も起きるわけで

す。読みやすいように親切をするのがいいのか、口語訳聖書のように小見出しなど付けないのがいいのか、考えさせられます。

Ⅲ 15章朗読

それでは、場面設定と登場人物の説明をしましたので、15章全部を読んでお祈りします。小見出しは読みません。